

新年を迎えて

参議院議員 宇都 隆史

日本郷友連盟会員の皆様、令和4年明けましておめでとうございます。航空自衛隊出身「空翔ぶ参議院議員」こと宇都隆史（ウトタカシ）です。昨年は公私にわたりご指導ご鞭撻を賜り、厚くお礼申し上げます。

自由民主党政務調査会 高市早苗政調会長の下で会長代理に就任

さて、昨年を振り返ると国内政治に大きな変化がありました。コロナ対応に尽力した菅政権が1年の任期を全うし、菅総理が次期自民党総裁選挙に出馬しない意向を表明したことで、新たなリーダーを決める競争が白熱しました。

総裁選は一次投票では決着がつかず、岸田候補と河野候補によって決選投票が争われ、第27代自由民主党総裁に岸田文雄氏が就任しました。高市候補は残念ではありましたが、議員票だけ見れば岸田候補に次ぎ114票を獲得し堂々の2位。次回につながる戦いができた陣営は大きく盛り上がりました。

今回の総裁選において一番良かったことは、自民党は人材の宝庫であり、次期総理におかしくない中堅が沢山いることや、若手も伸びてきており人材育成機関としても機能しているということを示せたことだと思います。

新たに誕生した岸田総理・総裁において内閣および党内人事が刷新されました。私は菅政権においてお預かりしていた外務副大臣の要職を辞任し、新たに「自民党・政務調査会長代理」の役職を頂戴いたしました。本来であれば、自民党・国防部長の役職への就任を希望していましたが、政務調査会長代理は部長よりも上位の役職です。政調会の所属機関である各部会にて審議された法案や予算は、その後に政調審議会にて了承するかどうかを諮られます。しかも、全ての部会から上がってくる内容を審議しますので、幅広い知識や政策力が求められます。今回私は、国防部会（防衛省）と経産部会（経済産業省）を主に担当することになりました。岸田政権は、国家安全保障戦略・防衛大綱・中期防衛力整備計画の見直しを表明していますし、本年の通常国会には経済安全保障に関する法案も審議予定です。非常に緊要な時期において、それを中心的に取り扱う党の重要ポストを頂いたことを感謝しておりますし、またその重責に身の引き締まる思いがしております。また何より、総裁選においてお支えした高市早苗政調会長のお側でご奉仕できることも幸甚の至りです。新たな役職においてしっかりと仕事をし、自衛官出身議員として防衛政策を主軸としながらも、経済産業分野へも政策の幅を広げていきたいと考えています。

衆議院総選挙の結果と総括

10月末には、任期満了に伴う衆議院総選挙が実施されました。私も同僚議員の応援に全国各地を駆け回り、声を枯らして自民党の政権公約を訴えさせていただきました。

誕生したばかりの岸田政権への若干のご祝儀相場もあり、菅政権時代ほどの逆風ではない戦いでしたが、追い風が吹いた選挙区など一つもなく「非常に厳しい戦いをギリギリで制した」というのが率直な感想です。選挙前に自民党は276議席だったのが261議席（マイナス15議席）となり「大負けはしなかった。いや絶対安定多数を自民党単独で取れたのだから勝ったと言ってもいい」

というような驕りの声も漏れ聞こえますが、うち 55 議席は比例復活で、選挙区で勝利できたのは 190 議席のみです。これを大いに反省し、きちんと分析をして参議院選挙に臨まねば大変なことになるとの危機感を感じています。

選挙結果の得票分析を行うと、意外なものも出てきます。比例区においてどの党に投票したかを年代別に見てみると、実は自民党と書いたのは 10 代の割合が一番高く 42%、次が 20 代で 40% なのです。「自民党の支持層は高齢者である」というのは既に誤った認識で、やはり今の若者が政治に何を期待しているのかということのを正しくキャッチする必要性を強く感じます。また、今の 40 代以下は、ほとんどの家庭が新聞を購読していませんし、20 代以下になるとテレビも見ません。情報収集手段は専らスマホ経由です。よって、日頃から SNS 等を活用したインターネットでの情報配信をしている候補とそうでない候補では、大きな差が出ます。私もインターネットを活用した情報配信には日頃から注力していますが、引き続き努力を傾注して参ります。

岸田政権の使命と、参議院選挙に向けた決意

岸田政権において最優先でやってもらいたいことは「戦後の我が国の安全保障体制の大転換」を実行することです。岸田総理は、専任大臣としては歴代最長の 4 年 7 ヶ月を外務大臣としてご活躍されました。

よって、今般の中国の覇権主義や欧米の力の衰退といった外交・安全保障の厳しい現実はしっかりと頭に入っています。その上で、国家安全保障戦略・防衛大綱・中期防衛力整備計画を見直すということのを明言し、総選挙初日の 10 月 19 日に北朝鮮のミサイル発射を受けて国家安全保障会議を開催し「防衛力の抜本的な強化に向けて、敵基地攻撃能力の保有も含め、あらゆる選択肢を検討するよう確認した」と発表しました。

総選挙における自民党の政権公約にも「諸外国並みの防衛費 GDP 比 2% を目途に抜本的な増額を図る」とうたっています。戦後に歪な形となっている現在の安全保障体制の大転換を行う好機であり、今それをしなければ我が国は将来必ず来る有事に対応できないと思うのです。かつ、その見直しには時間がありません。というのも、本年の 6 月頃からは令和 5 年度の本予算の概算要求作業が始まるため、国家安全保障戦略・防衛大綱・中期防の見直しは同時並行的に進めつつ、6 月頃にはそのガイドラインと概ねの予算規模が見えていなければなりません。

また 6 月末? 7 月初旬に行われる参議院選挙においては、この大転換の是非を国民に問うという大切な意義もあります。私も今年の参議院選挙には 3 期目となる挑戦をする予定で既に党からの 1 次公認もいただいています。防衛の現場を知る数少ない自衛隊出身議員として、岸田政権の使命である安全保障体制の大転換事業において中心的役割を果たし、私自身もその成果を持って、さらなる 6 年の任期をいただけるかどうか、皆様からの審判をいただくつもりです。

結びに

昨年末から落ち着きつつあるコロナですが、引き続き予防対策に万全を期しつつも、コロナによる 2 年間のマイナスを取り戻す一年のスタートです。国際社会において日本が強いリーダーシップを発揮し、また安全保障の現場で汗を流す自衛官が万全の態勢で任務に邁進できるよう、数少ない自衛隊出身の国会議員として、与えられた役職に全身全霊で取り組んで参る所存です。末筆ながら、

今年一年が我が国及び国民にとりまして幸多き年となりますよう、重ねて会員の皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。